

平成27年度教育研究交流委員会 国際交流事業 平成27年度ハルリム大学医学部看護学科学生の訪問

教育研究交流委員会：金子典代、嶋田理佳、山口孝子、
香月富士日、山口知香枝

教育研究交流委員会では国際交流の推進を続けており、平成27年度は交流プログラムの4回目を迎えた。本学からの学生派遣、ハルリム大学からの学生受け入れを隔年で実施しており、平成27年度は6月22日(月)から6月29日(日)の1週間にわたりハルリム大学看護学科学生を4名本学へ受け入れ、学生間交流を行った。今年度は受け入れと同時期に、韓国で中東呼吸器症候群(MERS)が拡大しており、受け入れについては教授会で協議を行い受け入れの審議決定を行うとともに受け入れ体制を整えた。感染予防対策を滞在中は厳重に行い、体調管理を万全にすることを約束し(表1)、プログラムを実施した。本年度のプログラムの概要を下記に報告する。

I ハルリム大学看護学科生の名古屋市立大学看護学部への受け入れについて

1) プログラム内容について

(詳細プログラムは表2を参照)

- ①ハルリム大学の学生に、健康科学の講義において、韓国の医療・保健事情、高齢化、少子化を統計資料に基づく発表を依頼した。4名のハルリム大学の学生は、英語で20分にわたりプレゼンテーションを行い、教員は日本語通訳を行った。本学の受講学生からも多くの質問が寄せられ、ハルリム大学の英語力の高さにじかに触れ、大きな刺激となったとの感想が得られた。
- ②精神障がい者地域復帰支援施設、エイズ予防啓発センターの見学も計画通り実施し、公衆衛生プログラムに関するプログラムの日韓の違いの理解につながった。
- ③生涯発達看護援助論Ⅱの演習に参加した。学生ともコミュニケーションもとりながら技術を学ぶ機会となり、貴重な機会であったとの感想が寄せられた。
- ④病棟の見学実習はMERSの可能性を鑑みキャンセルとなったが、水野副看護部長より名市大病院、看護体制の説明を受けた。また、看護部の計らいにより、名市大病院の外来や病棟の一部の見学を実施することができた。
- ⑤鳴子団地のまちの保健室の見学を行った。保健室のスタッフからはプロジェクトの概要など詳細な説明をハングル語も使いながら受けることができ、温かい歓迎と丁寧な説明に学生にも好評であった。高齢化の進展について日韓で行われている対策についてもスタッフとディスカッションを行った。

⑥シミュレーションセンター、看護学部実習室見学を行い、日本と韓国で用いる医療器材、モデル等教育機材の違いについて学んでいた。

⑦本学の国際交流に関心のある学生との交流会を実施した。昨年度本学からハルリム大学に短期留学に行った学生4名が交流会に参加し、また滞在中も空港までの見送りなど積極的に交流を行っていた。

2) 学生の選定について

①ハルリム大学の担当者教員が応募学生の日本語力、英語力、学力等から4名を選考した。ハルリム大学より、参加学生に対して4万円程度の金銭補助が出たとのことである。

3) 時期について

①実習、講義の時期であり名市大側にはスケジュール的には厳しい時期ではあった。

4) 名市大の留学生寮の使用について

(川名より徒歩5分、名市大より徒歩15分)

- ①日本への訪問前にパスポートのコピー、入寮申請書、プログラム参加証明書、入寮にあたって日本語の4-5種類の書類をそれぞれ提出する必要があり、第1回の受け入れ(平成25年度)では、相当な時間や手続きを要したが、本年度は学術課の尽力もあり非常にスムーズに実施することができた。
- ②最上階の最も使いやすい4部屋を事前に用意していただき、費用は、光熱費、寝具レンタル代も含めすべてで約10,000円(全期間)であり妥当であった。利便性にも問題ないと思われる。電気のメーター、ガスの締めへの立会いなどの必要がないように学術課により計らっていただくことで教員の負担は軽減した。

5) 参加学生からのフィードバック

全員の学生が、プログラム内容を高く評価しており、異文化体験、日韓比較、日本の医療看護事情を

学ぶ貴重な機会となったとの感想がプログラム終了後に寄せられた。詳細なコメントは表3のとおりである。

表 1

<p>【中東呼吸器症候群（MERS）に関する対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●受け入れる研修生について、MERSに感染している疑いが極めて低いと確認できることを、ハルリム大学に書面にて提出を求める。 ●研修生4名ともに、来日中は常に連絡が取れるよう、携帯電話の番号を申告させる。 ●滞在中の朝・夕の検温、体調管理、手指消毒、サージカルマスクの着用を徹底させる。検温等結果は、毎日提出させて委員が確認する。 ●MERSと疑われる症状が発生した場合、極力人との接触を避け、直ちに金子委員長に連絡させる。 ●連絡を受けた金子委員長は、症状の詳細を聞き取り、医療機関の診察が必要か判断する。この際は、厚生労働省健康局結核感染症課長の通達（健感発0610第1号）に従う。 ●MERSの可能性がある場合、昭和保健所保健予防課（担当：日高課長）に電話連絡する。また、併せて市健康福祉局健康部保健医療課主幹の指示も仰ぐ。 ●指示に従い、東部医療センターに移送します。移送手段は、指示を仰ぐ。 	
--	--

表 2 受け入れプログラムの詳細

Day	Date	Time	Schedule
1	22 Jun (Mon)	10:00 arr 12:00 14:00 15:00	Arrival to Chubu airport, Noriyo Kaneko pick you up at the airport at 10:30 AM. Lunch at NCU Orientation of NCU, School of Nursing (410) Go to NCU dormitory by subway/taxi Free time
2	23 Jun (Tue)	9:10 - 9:30 10:00 11:30 13:00 14:50	Meeting with Dean of the school Preparation for presentation in a class "Health statistics" Welcome Lunch Participation in the class "Health statistics" by Noriyo Kaneko Go to Yamanoata campus to pay money for using dormitory (on foot)
3	24 Jun (Wed)	9:30 10:30 13:00 Night	Arrive NCU Cafeteria "suisin" operated by schizophrenic patients at recovering stage. Lunch Participate in the class "Adult nursing basic skills" in simulation center (13:00-16:10) Party with students
4	25 Jun (Thu)	AM 13:00 19:00	Exchange between students (Free time) Visit of health center for elderly person in suburb community in Naruko Visit of AIDS/HIV prevention center in LGBT community.
5	26 Jun (Fri)	10:30 13:00	Introduction of NCU hospital (by vice chief of nursing division in NCU hospital) NCU Hospital instruction visit (Operation room, ICU,PICU,CCU, Social worker room etc.) after freetime
6	27 Jun (Sat)		Sight-seeing with NCU students Free time
7	28 Jun (Sun)	11:00 departure	Free time (departure) kawana subway station (7:59) ⇒ kanayama 8:24 ⇒ Chubu central airport 8:48 Total 1050 yen

表3 参加学生からのプログラム評価（評価に用いた質問と回答を列記した）

1. What did you learn from this exchange program?

- I realized importance of foreign language.
- I learned about Japanese medical system.
- I learned friendship with Japanese friends. And I get an information about Nagoya hospital.
- Before I go this program, I can't imagine other country's nursing. But now I can feel it has differences.

2. What was the most impressive program?

- Go to cafeteria "susin" operated by schizophrenic patients at recovering stage.
- The most impressive program was visiting hospital.
- The presentation was the most impressive program. It was very funny and comfortable.
- I feel I think almost things are so similar. But Japan's nursing puts more emphasis on community nursing care.

3. What were the difference of nursing/medical care between Japan and Korea did you think?

- The difference of nursing care is nurse's attitude. Korean nurse is more active than nurse who work in japan.
- I think Japanese nurses should care about very small things compare to Korean nurses.
- I think it's very similar between Japan and Korea.
- This program makes me have opening ideas. I realize how important broaden view is. So I try to keep my mind open on nursing besides all my life.

4. How are you going to make use of what you learned from this program?

- After this program, I have a brand view.
- When I go to Japan as a international nurse, I'm going to use what I've learned in this program. Also, when someone ask me about Japanese hospital, I'll tell him/her about it.
- I can speak to my junior colleague. So they can get an information about Japan's hospital and University.



ハルリム大学学生によるプレゼンテーション



名市大学生との交流



エイズ予防啓発センターrise



生涯発達看護援助論II参加



なごやか暮らしの保健室訪問



鳴子団地の見学